

一般会議報告書

開催日時	令和4年 7月27日(水) 午後6時30分～午後8時15分					
会場	八雲町役場3階 議員控室					
団体名等	八雲の未来を創造する会					
参加者数	5名					
出席議員	安藤辰行、牧野仁、大久保建一、倉地清子、関口正博、三澤公雄 横田喜世志、斎藤實、千葉隆					
役割分担	司会者	牧野	記録者	倉地	記録者	
会議のテーマ	・八雲の基幹産業である農業・酪農業・水産業の保全のために、有害残土処分のあり方を議論したい。 ・サケ資源とホタテ養殖場環境を蘇らせる方策について議論したい。					
意見交換等	別紙のとおり					

上記のとおり提出します。

令和4年 8月10日

八雲町議会議長 千葉 隆 様

記録者 倉地 清子

別 紙

〇八雲の基幹産業である農業・酪農業・水産業の保全のために、有害残土処分のあり方について

〈団体〉

- ・新幹線トンネル工事発生土に関する調査特別委員会設置を要望する請願書が不採択となったが、新幹線推進室からの点検結果の内容に疑問がある。
- ・6本のトンネルを9工区との修正があるが、9工区で9本の本坑・斜坑が掘られており、修正不要である。
- ・130倍のヒ素について、最大であろうがなかろうが130倍には違いない。
- ・なぜ国の環境基準値を受入地の基準値にしなければならないのか。
- ・黒岩Aに盤石工区から搬入した残土は130倍であり、町の報告は誤り。
- ・重金属類の吸着について科学的な仕組みについて説明されたのか。
- ・特別委員会の設置は不採択であったが、可能であればもう一度考えていただきたい。

〈議員〉

- ・委員会でも現地視察をして土石流等の心配もないことも説明を受けてきた。一番の問題は監視の目を強めるということ。特別委員会を設置しても、常任委員会より権限が強くなるわけではない。総務経済常任委員会として、監視の目を強め、注視していくことを確認している。

〈団体〉

- ・盤石から130倍のヒ素を含んだ残土が搬入されたときも、私がおかしなビニールシートを見たことがきっかけとなり、後に常任委員会への報告となった。監視・確認は大事。
- ・モニタリングをしても汚染されてしまったらどうにもならないので、そうならない努力が必要ではないか。

〈議員〉

- ・今後、そういった情報等を共有しながら監視していくことを委員会で話をした。
- ・現地視察をして、土壌汚染なども起こりうる可能性はあると思う。しかし、地下水のモニタリングをはじめ、いろいろな重金属の処理の方法など、国のガイドラインのとおり、正確に行われているかは鉄道・運輸機構を信用していくしかない。

〈団体〉

- ・残土の処分方法等について、たとえば生物を専門とする方など、もう一者、二者の意見も取り入れていただきたい。
- ・富咲地区にはお花畑があるが、浸透した水によってお花畑が損なわれるようなことがないよう見直していただきたい。
- ・地域の一次産業を守るためにも土壌が汚染されてはならない。そういった危険性があることを認識していただきたい。
- ・鉛川地区の2件の家があり、地盤が低く、井戸水が詰まっている。
- ・今の技術を信用しないわけではないが、裏付けが求められる時代になっている。

- ・残土を掘り出した時に、どのくらいの濃度で、どのくらいの量が出たのかのリストを提供していただきたい。北斗市では濃度ごとに置くようになった。

〈議員〉

- ・過去、新幹線や高速道路など、様々な工事が行われてきたが、土壌汚染対策法もその都度見直されてきている中、今まで積み重ねてきた工事实績と各団体や住民に対する対応も含めて、しっかりやってくるものと認識しているが、我々も、土壌汚染など、皆さんからの情報を共有しながら、しっかりと監視の目を強めていく。

○サケ資源とホタテ養殖場環境を蘇らせる方策について

〈団体〉

- ・ダムを設置により、川底の状態が悪くなり、サケがいなくなった。
- ・川底に溜まる砂が問題。以前はちょっとした雨でも川は濁らなかった。
- ・ダムから砂利を流す必要がある。ダムのスリット化を進めてほしい。
- ・せたな町では実施し良い結果となっている。ホタテにも影響がある。

〈議員〉

- ・北海道と協議し、工事が決定しているが、あまり進んでいないのが現状。
- ・サケが獲れない原因が100%ダムにあるのか、しっかりとした検証が必要。